

ありがとうの灯中

学校便り第9号

令和6年12月16日

福井市灯明寺中学校



先日ある記事を目にしました。それは、今世界中で4億人の子供たちが紛争地域に居住あるいは紛争地帯から避難していて、その人数の割合は世界の子供たちの5人に1人だそうです。また、世界の中で学校へ通うことができていない子供（6歳から17歳）は約2億5千万人で、8人に1人の割合だそうです。この割合を本校の生徒数で換算すると、2年生の男子生徒分は今紛争地帯等で日々悲惨な生活を送っていて、2年生の女子生徒分は学校へ行きたくても行けない辛い生活を余儀なくされていることとなります。つまり、本校の3学年のうち1学年分に当たる子供たちが、世界の至る所で苦しんでいる事実が分かります。この数の多さにとっても驚くと同時に、今の私たちの『当たり前の生活』の中では、「自ら知ろう」としたり、「調べよう」としたりしなかったら、外で起きている真実や実態について理解できずに終わってしまうことを再認識しました。やはり『井の中の蛙』になってはいけな。。と痛感した次第です。

さて、「令和6年」も師走を迎え、あと1週間で約2週間の冬休みに入ります。クリスマスやお正月がある楽しみの冬休みだと思いますが、3年生にとっては、1月から始まる受験本番を前にした「自分との戦い」の日々となるでしょう。ぜひ、健康に気をつけ、それぞれが定めた「トンネルの出口」を目指して、言い訳をせず、自分の甘えや弱さから逃げずに、自らの力で「自分の道」を切り拓いてください。進路説明会のときにもお伝えしましたが、長い人生の中で決して受験がすべてではありません。大切なのは、自分の足でトンネルの出口へたどり着き、自分自身の目で出口の先の景色を見ることです。それが成長というものです。ぜひ自分自身に納得のいく日々を過ごし、受験を通して人間的大きな成長を遂げて欲しいと願います。まさに「学校のリーダー」としてこの学校をしっかりと導き、後輩たちにとって見本となる姿を見せてくれた3年生の皆さんです。だからこそ、最後まで『団体戦』で走り抜けてくれることを期待しています！応援しています！！

「令和6年」は、元日の夕方に発生した「能登半島地震」で始まった年でした。1年の中で最も家族団欒の心温かなときを過ごしていた矢先に起きた大変悲惨な自然災害でした。自然の破壊力の凄さと地震の怖さを改めて感じました。その復興は今でも続いています。でも、痛んだ道路を元気に歩く子供たちがいます。校庭が避難所で使えず、公園で野球の練習をしている中学生の姿があります。1日も早く『当たり前の生活』を目指して、瓦礫の撤去作業や床下の泥のかき出しをする多くのボランティアや支援者の方がいます。私たちは「人」です。互いを思いやり、尊敬し、支え合うことで「光」が見えるはずで。来る「令和7年」が、能登の人たち、世界の子供たち、そして私たち一人ひとりにとって「生きる喜びの年」となることを心から願います。

皆さん、ぜひ良いお年をお迎えください！

福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

<学校保健委員会を開催>

12月2日(月)6限目、1・2年生を対象に学校保健委員会を行いました。福井医療大学の東伸英先生を講師としてお招きし、「ケガを防止するために行うストレッチ」という出前授業を行いました。体の柔軟さとケガがとても密接な関係にあることを実際に様々なストレッチを体験しながら学ぶことができました。



<1・2年生が合唱祭♪>



12月13日(金)の5&6限目に、1・2年生が「合唱祭」を行いました。以前は6月頃に「合唱コンクール」として行っていましたが、他の行事との関係で「合唱祭」として、この12月に新たな形で復活しました。とても寒い時期の開催となりましたが、目的でもある「歌を通してクラスの団結力を育てる」姿を感じることができました。皆さんの努力に、仲間との和づくりに拍手です！